戦後75年特別上映

一般社団法人 昭和文化アーカイブス

「戦争の記憶と記録を語り継ぐ映画祭」

2020年 8月5日・6日 江東区文化センター / 9日 日本橋公会堂

LINE UP 東京大空襲・沖縄戦・ヒロシマ・特攻隊をテーマに7作上映

「一枚のハガキ」「夏少女」「ガラスのうさぎ」「愛と死の記録」「ドキュメンタリー沖縄戦」「月光の夏」「誰がために憲法はある」

©近代映画協会

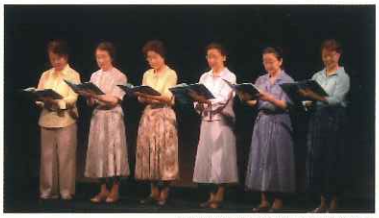
©「夏少女」上映委員会

©「ガラスのうさぎ」製作委員会

©日活

© 浄土真宗本願寺派(西本願寺) 青空映画舎

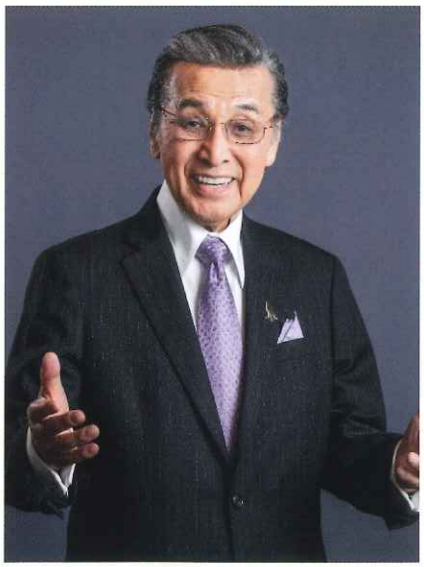
©日本映画放送


©「誰がために憲法はある」製作運動体

来場トークゲスト

江東区文化センター	日本橋公会堂

8月5日（水）
ミュージシャン
坂田 明さん



8月6日（木）
俳優
宝田 明さん

8月9日（日）
女優
渡辺 美佐子さん

トークの聞き手はすべて共同通信社・編集委員の立花珠樹さん
（詳しいスケジュールは裏面をご覧ください）

映画祭　開催への思い

2020年、オリンピックイヤーの幕開けに突如、日本・世界中を襲った新型コロナウイルスの猛威。56年ぶりの開催が予定されていた東京オリンピックは延期が決定し、緊急事態宣言発令により全国民が外出自粛や休業を余儀なくされました。宣言解除後も経済・社会の混乱は収まらず、感染者の波も収束には程遠い状況にあります。

このコロナ禍で戦後75年の東京大空襲の追悼式典(都主催)は中止され、全国の戦没者慰霊祭も中止あるいは大幅に縮小せざるを得なくなり、高齢化する戦争体験者や被爆者の方々から直に体験を聞く機会も激減しています。2012年から毎夏主催してきた「新藤兼人平和映画祭」も戦後75年を節目に名称を「戦争の記憶と記録を語り継ぐ映画祭」に変更し、より幅広い作品を上映したいと計画を立てていましたが、コロナ禍により一切の目途が立たなくなり、今年は中止も覚悟していました。

しかし、このままでは新型コロナウイルスの影響で、戦争の記憶や戦後75年への思いさえ薄れていってしまうのではないか、という思いが募り、せめて自分たちができることをやろうと、緊急事態宣言が解除された5月25日から準備を開始し、やっと開催に漕ぎつけることができました。

この度、「戦争の記憶と記録を語り継ぐ映画祭」では戦後75年の節目に改めて、「映画」という手段で戦争の記憶や記録を伝えてきた巨匠たちの作品を上映し、"戦争を忘れない"そして"映画文化を守りたい"という2大メッセージを発信し、映画祭を開催します。

上映作品は、東京大空襲・沖縄戦・原爆投下・特攻隊をテーマにした映画7作品。トークゲストには、終戦間近の広島・呉に生まれ育ったミュージシャンの坂田明さんや、満州からの引揚げ体験者である俳優の宝田明さん、12歳で終戦を迎え、長年にわたり広島・長崎の原爆の惨禍を伝える朗読劇を続けてきた女優の渡辺美佐子さんを迎えます。皆様に安心してご覧いただけるよう感染予防対策を徹底した上で上映・トークを行います。

撮影：平早 勉

「戦争の記憶と記録を語り継ぐ映画祭」　主催：一般社団法人　昭和文化アーカイブス

主催者代表　御手洗(みたらい) 志帆(しほ)

1988年（昭和63年）、広島市生まれ。青山学院女子短期大学卒業後、アルバイトで生計を立てながら、2012年、「新藤兼人平和映画祭」を個人で企画・主催。以後ライフワークとして毎年８月に主催し、今年で9年目を迎える。戦後75年の今年から運営母体として「一般社団法人 昭和文化アーカイブス」を設立し、映画祭タイトルを「戦争の記憶と記録を語り継ぐ映画祭」に変更。2014年からテレビ番組制作会社に勤務。ひめゆり学徒隊、陸軍初の特攻隊・万朶隊や三島由紀夫事件などの取材・制作に携わる。2017年には、広島の母校・「安田高女」の原爆被害を取材した番組を放送し、2019年1月にアジアテレビジョンアワードにノミネートされた。連絡先：mitaraikikaku@gmail.com

ー「戦争の記憶と記録を語り継ぐ映画祭」とはー

前身は2012年から毎年8月に都内で開催してきた「新藤兼人平和映画祭」。広島出身の映画監督の新藤兼人の作品を始め、原爆・反戦をテーマにする映画を上映し、映画ゆかりの人物をゲストに招き開催してきた。9年目を迎える今年からタイトルを「戦争の記憶と記録を語り継ぐ映画祭」とし新たに設立した一般社団法人「昭和文化アーカイブス」を母体に再スタートを切る。

© 岡村啓嗣

※本映画祭のタイトルは故・菅原文太さんが2013年に「第3回　新藤兼人平和映画祭」に寄せてくださった言葉に由来します。　下記メッセージ全文

若い人々と子供たちが幸せでない時代は、間違いなく悪い時代だ。
若い人たちと子供たちに希望がない国は、間違いなく悪い国である。
日本は大丈夫か。
いや、日本はこのままでは、
第二次世界大戦の敗戦後に生き残った人々で築いた戦争をしない国から、
若い人々や子供たちを犠牲にする国に戻ってゆくだろう。

そんな国にならないために、戦争の記憶と記録を
幾度も幾度も繰り返し読み、また語り、伝えてゆこう。

菅原文太

上映作品

作品解説：若井信二

東京大空襲・沖縄戦・原爆投下・特攻隊をテーマに7作品

2011年公開　©近代映画協会

一枚のハガキ

[監・原・脚]新藤兼人[撮]林雅彦[音]林光[美]金勝浩一[出]豊川悦司、大竹しのぶ、六平直政、柄本明、倍賞美津子、大杉漣、津川雅彦、川上麻衣子、絵沢萌子、麿赤兒

「今日はお祭りですが　あなたがいらっしゃらないので　何の風情もありません」……一枚のハガキを戦友から託された男がその妻を訪ねる。（新藤が同年兵から奥さんのハガキを見せられた軍隊体験から着想したという）普通の人生を狂わせる戦争への怒り、生き残った者の悲しみとともに生への讃歌を力強く奏でる新藤の最後の作品。撮影時98歳、映画作家としての執念と持続する志に脱帽！キネ旬1位。ブルーリボン監督賞。毎日映画コンクール大賞、脚本賞。

8月5日　10:30-　特別解説付き　2012年100歳で逝去した新藤兼人監督の遺作

1996年完成　2019年劇場初公開　©「夏少女」上映委員会

夏少女

[監]森川時久[脚]早坂暁[撮]東原三郎[音]桑原研郎[美]竹内公一[製]鍋島惇　内野谷典昭[出]桃井かおり、間寛平、矢崎朝子、藤岡貴志、景山仁美、朱門みず穂、高原駿雄、川上夏代、坂田明

瀬戸内海の小さな島に暮らす少年マモルの前に現れた赤いワンピースの女の子。子どもを持つことに思い悩んだ両親、生活の営みの中に否応なく滲む被爆という過去。家族3人にしか見えない少女には原爆で亡くなった早坂の妹が投影されている。早坂が「私たちは、心に被爆すれば彼らが見える」と語る、ヒロシマの記憶を現在に、そして未来につないでいくという思いがこめられた鎮魂のファンタジー。現地ロケで捉えた美しい自然も見どころ。

8月5日　13:15-　上映後トークあり　映画完成から23年　去年劇場で初公開された幻の名作

2005年公開　©「ガラスのうさぎ」製作委員会

ガラスのうさぎ

[監]四分一節子[原]高木敏子[脚]小出一巳、末永光代[撮]岡崎英夫[音]大島ミチル[美]小林七郎[声の出演]最上莉奈、竹下景子、神谷浩史、福山潤、原康義、岡珠希、川田妙子

12歳の敏子の目から見た戦時下の生活を描き、海外でも読まれる原作をアニメ化。穏やかな下町の暮らしは一転、軍国教育、食料不足、疎開など過酷な日常になっていく。切子職人だった父の作ったガラスのうさぎも溶けてしまうほどの東京大空襲の凄惨さ。当たり前の生活を奪い、子どもに理不尽な我慢を強いる戦争を糾弾するとともに、戦争放棄を高らかに謳う新憲法に未来を託す。こうした思いで新憲法が成ったことを今一度、胸に刻みたい。

8月5日　16:45-　/19:00-　東京大空襲で大きな被害を受けた江東区で上映　子供の平和学習にも

1966年公開　©日活

愛と死の記録

[監]蔵原惟繕[脚]大橋喜一、小林吉男[撮]姫田真佐久[音]黛敏郎[美]大鶴泰弘[出]吉永小百合、渡哲也、芦川いづみ、滝沢修、佐野浅夫、中尾彬、浜川智子、垂水悟郎

レコード店で働く和江は印刷工の幸雄と出会い、結婚を誓い合う。しかし、両親を被爆で失った幸雄は白血病を発症、和江は懸命に看病するが…実話に基づく悲恋の物語をシャープなモノクロ映像で綴る名作。原爆ドーム、バイクで行く海など二人が佇む風景がリリシズムを湛え、観る者に静かに訴えかける。撮影前、蔵原に連れられ、原爆記念館を見学し衝撃を受けた渡と吉永は思いつめたように深夜もリハーサルを行い入魂の演技を見せた。

8月6日　10:30-　特別解説付き　戦後75年の広島・原爆の日に観てほしい吉永小百合さん主演作

2020年公開　© 浄土真宗本願寺派(西本願寺) 青空映画舎

ドキュメンタリー沖縄戦 知られざる悲しみの記憶

[監]太田隆文[撮]三本木久城、吉田良介
[音]サウンドキッズ
[ナレーション]宝田明、斉藤とも子

太平洋戦争における日本唯一の地上戦が行われ、当時の県民人口の3分の1が亡くなったという沖縄。圧倒的戦力の米軍に対する捨て石とされ、民間人も動員された戦闘。集団自決を強いられ、親が我が子を手にかけざるをえない状況など体験者の方々の生々しい証言、専門家の考察、記録映像により悲惨な実相に迫る。基地問題、改定されない地位協定、無視される民意など、犠牲を押し付けられる構図が沖縄を覆っている今も、私たちが問われているのだ。

8月6日　13:00-　上映後トークあり　戦後75年　目をそむけず考えたい沖縄戦の惨劇

1993年公開　©日本映画放送

月光の夏

[監]神山征二郎[原・脚]毛利恒之[撮]南文憲[音]針生正男[美]春木章[出]若村麻由美、田中実、永野典勝、渡辺美佐子、石野真子、滝田裕介、小林哲子、田村高廣、花沢徳衛、高橋長英、内藤武敏、山本圭、仲代達矢

昭和20年、佐賀県鳥栖の小学校に「出撃前にピアノを弾かせてほしい」と二人の特攻隊員が訪れる。戦後50年近く経ち、そのうちの一人が生き残っていると聞いた地元ラジオ局が取材をするが、彼は何も語ろうとしない……。「どの人にでもやはり戦争の痛みみたいなものを分かってもらうことが映画にはできる」と語る神山が、綿密な調査を重ねて撮り上げた名篇。ラスト、渡辺の「生きていてくださって良かったです」という台詞が胸に響く。

8月9日　10:30-　2本立てセット(トークあり)の1本目 / 15:45-　特別解説付き

2018年公開　©「誰がために憲法はある」製作運動体

誰がために憲法はある

[監]井上淳一[撮]蔦井孝洋、土屋武史、高間賢治、向山英司[音]PANTA[出]渡辺美佐子、高田敏江、寺田路恵、大原ますみ、岩本多代、日色ともゑ、長内美那子、柳川慶子、山口果林、大橋芳枝

渡辺美佐子は戦後35年目になって、初恋の人が疎開先の広島で亡くなっていたことを知る。「自分の知ってる一人の人間が消えてなくなった」……それぞれ顔を持った一人一人の人間の存在を消し去ることが本当の原爆の怖ろしさと実感、以後9人の女優とともに原爆詩の朗読を34年間、全国で続けてきた。そして今、芸人・松元ヒロが20年前から語ってきた「憲法くん」を渡辺がひとり語り。二人の「語り継ぐ」志が重なり渾身のメッセージになる。

8月9日　12:40-　2本立てセット(トークあり)の2本目 / 18:30-　長崎・原爆の日にぜひ観てほしい

予約方法

予約(前売り)はメール、映画祭ホームページ・予約フォーム、電話にて承ります

＜予約手段＞

■メール:showa.archives@gmail.com　■映画祭ホームページ:https://www.showabunka.org/

■電話:090-8603-1846(御手洗)　※電話予約は土日のみ　(平日の場合は留守番電話対応)

上記いずれかに

1)氏名　2)人数　3)上映希望作品(複数可)　4)連絡先　メール or 電話番号　を記入し、ご予約のほどお願いします

※料金は前売り・当日関係なく　当日・受付で現金払いとなります　受付に氏名をお伝えください　※入場は受付順。

新型コロナウイルス対策における ご来場の皆様へのお願い

当映画祭では新型コロナウイルス拡大防止のための対策を徹底化します
ご来場の皆様にはご負担をおかけすることもあるかと思いますがご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします

＜ご協力のお願い＞

■来場時、すべてのお客様に検温をお願いします (※体温が37.5度以上の方には入場をお断りすることがあります)

■受付には間隔をあけてお並びください　■料金はなるべく釣銭が生じないようご用意ください

■会場ではマスクの着用をお願いします (※マスクをしていない方には当日受付で1枚50円で購入していただきます)

■万が一、当映画祭で感染者が出た場合はすぐにご連絡ができるご連絡先の提示をお願いします

■緊急事態宣言が再び発令された際は 当映画祭は中止となります

＜主な対策＞

■検温　■入口・トイレ等に消毒液設置　■受付にパテーション設置　■スタッフはフェイスシールド・マスクを着用

■会場を入れ替える度にスタッフが全席を消毒します　■会場の換気　■入場人数は席数の2分の1以下に

サポーター・協賛企業・共催者募集

一般社団法人 昭和文化アーカイブス

一般社団法人 昭和文化アーカイブスでは、サポーター会員、協賛企業、共催者を募集しています。

昭和文化アーカイブスは、「戦争の記憶と昭和の文化を記録・継承する」ことを目的に2020年6月に設立しました。本映画祭(「戦争の記憶と記録を語り継ぐ映画祭」)を来年以降も実施し、昭和をキーワードに映画・音楽・文学・舞台関連等のイベントも企画・開催していきます。

現在、映画祭の上映費やチラシの印刷費、郵送費など活動を持続するための資金が不足しており、特に今年は新型コロナウイルス感染予防対策(入場者数を観客席数の2分の1以下に制限、マスク・フェイスシールド・ビニールシート・消毒液等の購入)を講じる必要があります。活動持続のためにも皆様からの温かいご支援・ご協力をお願いいたします。

下記銀行口座にご協賛いただきました方には、
来年度の映画祭の招待券1口1枚分を送付、来年度のチラシ・HPにお名前を掲載いたします。※非公開可

【協賛金】　1口5000円～【協賛方法】銀行振込
1．銀行名　三井住友銀行　広島支店(605)　2．口座番号　普)6830407　3．口座名義人　ミタライシホ

2019年度の映画祭サポーターの皆様　心より感謝申し上げます。(五十音順)

犬山幹雄様、大竹由紀子様、兒島弘明様、齊藤伊佐夫様、仙石敦子様、藤原由記子様、柳ケ瀬栄三郎様

「戦争の記憶と記録を語り継ぐ映画祭」実行委員会
スタッフは20代～40代を中心に運営しています
ボランティアスタッフも募集中です

終戦間近の広島・呉に生まれ育ち

ミュージシャン　坂田　明さん

（東京薬科大学生命科学部客員教授、広島大学大学院生物圏科学研究科客員教授）

5日②　GUEST
映画「夏少女」では原爆ドーム内で演奏

＜公式プロフィール＞ 1945年、広島県呉市出身、広島大学水産学科卒業。1969年、上京後、サックス奏者として活動。「細胞分裂」を結成。1972年～79年山下洋輔トリオに参加、以後「wha-ha-ha」「DA-DA-DA ORCHESTRA」「MITOCHONDRIA」など様々なグループの結成、解体を繰り返しながら、世界のあちこちであれこれしながら今日に至る。現在はレギュラーグループ、ARASHI（Johan Berthling、Paal Nilsen-love）梵人譚（ Jim O' Rourke, Giovanni Di Domenico, 山本達久）、坂田明 COCODA（大森菜々、かわいしのぶ、坂田学）を中心に数多くのセッションを展開中。著書には「ミジンコの都合」(共著 日高敏隆 晶文社)、「クラゲの正体」(晶文社)、「瀬戸内の困ったガキ」(晶文社)等がある。近著は「私説ミジンコ大全」CD「海」付（晶文社）
公式サイトhttp://www.akira-sakata.com

満州からの壮絶な引揚げ体験

俳優　宝田　明さん

6日②　GUEST
映画「ドキュメンタリー沖縄戦」ナレーション

＜公式プロフィール＞ 1934年4月29日生まれ。1954年、第6期東宝ニューフェイスとして「かくて自由の鐘は鳴る」でデビュー。「ゴジラ」「青い山脈」「放浪記」など、映画出演本数は130本以上に上る。「あげまん」「ミンボーの女」「マルタイの女」などの伊丹十三作品にも出演。1964年「アニーよ銃をとれ」で、ブロードウェイミュージカルに挑戦し、芸術祭奨励賞を受賞。以後、「サウンド・オブ・ミュージック」「風と共に去りぬ」「マイ・フェア・レディ」など数多くの作品の主演をこなし、第6回紀伊國屋演劇賞、第10回ゴールデンアロー賞を受賞。2012年には自身の製作・演出・出演によるミュージカル「ファンタスティックス」を全国公演し、平成24年度文化庁芸術祭賞大賞を受賞。近年は全国各地で講演活動も精力的に行っており、1945年にソ連軍が侵攻してきた満州での悲惨な少年時代の体験をもとに、平和の尊さを説いている。2016年5月には「戦後70年日本映画平和賞」を受賞する。

終戦時12歳
初恋の男の子は広島の原爆で

女優　渡辺　美佐子さん

9日①　GUEST
映画「月光の夏」/「誰がために憲法はある」出演

＜公式プロフィール＞ 俳優座養成所３期生。「ひめゆりの塔」(1953年/今井正監督)で映画デビュー。第9回ブルーリボン賞助演女優賞を受賞した「果しなき欲望」(1958年/今村昌平監督)など数多くの映画やドラマに出演。井上ひさし作の一人芝居「化粧」「化粧二幕」を、1982年から2010年の28年間で通算600回以上を上演。1997年に紫綬褒章、2004年には旭日小綬章を受章。近年は「舟を編む」（2016年/石井裕也監督）「ビブリア古書堂の事件手帖」（2018年/三島有紀子監督）「いのちスケッチ」（2019年/瀬木直貴監督）などに出演。女優たちで結成した「夏の会」では、広島・長崎の原爆の惨禍を伝える朗読劇「夏の雲は忘れない」を全国をめぐり公演してきたが、去年の夏、34年におよぶ活動に幕を下ろした。

聞き手・解説

共同通信社 編集委員　立花珠樹さん

5日①　特別解説　映画「一枚のハガキ」
6日①　特別解説　映画「愛と死の記録」
9日②　特別解説　映画「月光の夏」

1949年、北九州市生まれ。一橋大学卒業。74年、共同通信社に入社。1990年代から文化部記者として映画を取材する。監督・新藤兼人をはじめ、三國連太郎、岩下志麻、香川京子、若尾文子、吉永小百合など映画人へのロングインタビューや、名画の楽しい見方を紹介する映画コラムなどを執筆。著書には「新藤兼人 私の十本」/「岩下志麻という人生」（共同通信社）「若尾文子“宿命の女”なればこそ」/「凛たる人生 映画女優 香川京子」（ワイズ出版）、吉永小百合との共著「私が愛した映画たち」（集英社新書）など。今年3月には「もう一度見たくなる100本の映画たち」（言視舎）を出版。現在、東京新聞夕刊にて「再発見！日本映画」を毎週連載。

立花珠樹さんには当映画祭の前身の「新藤兼人平和映画祭」第1回目から9年連続で特別協力していただいています。

江東区文化センター　8月5日（水）～映画が伝えた戦争の悲劇～

① 10：15- 開場 / 10：30- 特別解説 10：40頃- 上映	上映前　共同通信社・立花珠樹さんの特別解説付き（約10分） 映画「一枚のハガキ」（114分） 12：35 終了予定	特別解説＋上映 前売り 1300円 当日 1500円
② 13：00- 開場 / 13：15- 上映 14：45- 10分休憩 14：55- トークショー（約50分）	映画「夏少女」（90分）　上映後⇒休憩（10分）⇒トークショー <ゲスト> ミュージシャン 坂田 明さん / プロデューサー 鍋島 惇さん <聞き手>　共同通信社・立花珠樹さん 15：45 終了予定	上映＋トーク 前売り 1300円 当日 1500円
③ 16：30- 開場 / 16：45- 上映	アニメ「ガラスのうさぎ」（84分） 18：10 終了予定	前売り 1300円 当日 1500円
④ 18：45- 開場 / 19：00- 上映	アニメ「ガラスのうさぎ」（84分） 20：25 終了予定	前売り 1300円 当日 1500円

江東区文化センター　8月6日（木）～ヒロシマ・原爆の日に想う～

① 10：15-開場 / 10：30- 特別解説 10：40頃- 上映	上映前　共同通信社・立花珠樹さんの特別解説付き（約10分） 映画「愛と死の記録」（92分） 12：15 終了予定	特別解説＋上映 前売り 1300円 当日 1500円
② 12：45- 開場 / 13：00- 上映 14：50- 10分休憩 15：00- トークショー（約50分）	映画「ドキュメンタリー沖縄戦 知られざる悲しみの記憶」（105分） 上映後⇒休憩（10分）⇒トークショー <ゲスト> 俳優　宝田明さん　<聞き手>　共同通信社・立花珠樹さん 15：50 終了予定	上映＋トーク 前売り 1300円 当日 1500円

1回入れ替え制 / 席・自由席 / 料金・当日受付で支払い 現金のみ /予約については内面に詳細

江東区文化センターホール　アクセス・注意事項

〒135-0016 東京都江東区東陽4-11-3 ホール

◆電車　東京メトロ東西線「東陽町」駅　1番出口より徒歩5分
◆駐車場あり
・23台 高さ制限2.5m以下　・利用時間 8:30～22:00
・1台20分につき100円（ただし、最初の30分は無料）
※敷地内に喫煙所はありません

日本橋公会堂　8月9日（日）～女優・渡辺美佐子さんと戦争～

① 10：15- 開場 / 10：30- 1本目上映 12:25- 15分休憩 12：40-　2本目上映 13：55頃- 10分休憩 14：05- トークショー（約50分）	映画「月光の夏」（112分）　上映後⇒休憩（15分） 映画「誰がために憲法はある」（71分） 上映後⇒休憩（10分）⇒トークショー <ゲスト> 女優 渡辺美佐子さん　<聞き手>共同通信社・立花珠樹さん 14：55 終了予定	映画２本セット＋トーク 前売り 2500円 当日 2800円 上記料金をお支払い頂ければ2本目から鑑賞＋トークあるいはトークのみ鑑賞も可
② 15：30-開場 / 15：45- 特別解説 15：55頃- 上映	上映前　共同通信社・立花珠樹さんの特別解説付き（約10分） 映画「月光の夏」（112分） 17：50 終了予定	特別解説＋上映 前売り 1300円 当日 1500円
③ 18：15- 開場 / 18：30- 上映	映画「誰がために憲法はある」（71分） 19：40 終了予定	前売り 1300円 当日 1500円

1回入れ替え制 / 席・自由席 / 料金・当日受付で支払い 現金のみ /予約については内面に詳細

日本橋公会堂（愛称・日本橋劇場）　アクセス・注意事項

〒103-8360 中央区日本橋蛎殻町1－31－1号 4階

◆電車　東京メトロ　半蔵門線「水天宮前」駅6番出口から徒歩2分
日比谷線「人形町」駅A2出口から徒歩5分
東西線「茅場町」駅4A出口から徒歩10分
都営地下鉄 浅草線「人形町」駅A3・A5番出口から徒歩7分
◆駐車場なし　※敷地内に喫煙所はありません